

## 合唱（2）

音楽教育講座：楠 俊明

### 1. 授業の目的

授業の目的は、「音楽に関する教職を希望する者として、必須の教養としてのアンサンブルの指導や合唱の指導法や表現方法を理解し、様々な音楽表現ができる能力を身につける。」である。

### 2. 授業の到達目標

- ハーモニーを感じて豊かな演奏をすることができる。
- 他者と音楽性豊かにアンサンブルを行うことができる。
- アンサンブルの楽しさを聴き手に伝えることができる。

### 3. 授業の位置づけ

合唱（2）は1、2回生 18名の受講生である。しかし、合唱（6）（8）と合同で開講されており、全受講生は33名である。

今年は、本音楽講座の学生が主催する「楽友会」の演奏会が実施されないため、ミュージカルを公演を附属校園の土曜学習として企画した。しかしながら、日程的に参加できない学生もいるため、ミュージカルナンバーの合唱を仕上げていくことを中心に授業を進めた。

その公演は2月に開催されるため、1月始めにナンバーの合唱曲のアンサンブル発表を実施し、それ以降は舞台発表練習に重点を置いて授業を開講した。

### 4. 指導のポイントと実際及び評価

ミュージカル公演であるために、ソリストナンバーや台詞の指導も必要となってくる。ただ、この授業では、合唱部分を中心に指導を進めた。ソリストの指導は授業時間外に個別で行った。

アンサンブルの学習では、授業での練習時間では仕上がらないため、グループで集まって練習を進めていた。どのグループも2回程度集まって曲を仕上げていた。

指導は次の4つにポイントを置いて進め、発表に向けて意識を高めていった。

- ① 遠くに響く声でありながら、ハーモニーを奏でる声を目指す。
- ② 舞台での表現であるため、顔の表情をしっかりと伝えるように歌う。
- ③ 動きのある部分はその動きの必然性を感じさせて表現する。
- ④ 言葉がしっかりと伝わるように発音するとともに、その意味を伝える表現をする。

この4つのポイントをクリアするために、それぞれのナンバーの意味や価値、大切な言葉やメロディーの表現方法を考えさせながら指導を進めた。1、2回生であるため、どうすればうまく仕上がるかを自分たちで考えさせながら、創造的に練習していく時間を大切にしたい。なかなかうまくいかないようであったため、グループに上回生を混ぜて、これまでの経験を生かした取組を教わりながら自分たちの思いで表現することを大切にしたい。

ミュージカルで使われるナンバーのアンサンブルの発表を目指して、3人から4人のグループに分け、一人一部分の合唱を仕上げていく活動を進めた。全員で規定曲を練習し、その他はグループで選択した曲の発表会を行うこととした。自分のパートが一人であるため多くの技術が必要とされる。4回生が多いグループはしっかりと発表できていた。1、2回生もミュージカルの発表のために、しっかりと歌っていこうとする姿がすばらしかった。

アンサンブル発表会終了後の授業は、ミュージカルの発表に向けての練習を中心に進めた。ここでの問題が大きく、授業後のアンケートでは、ミュージカルに参加しない学生の取組の格差が嫌だったという意見もあった。これまでは、楽友会コンサートに全員が参加するために、全員で舞台を作っていくことと

なっていたが、今年は希望者だけの参加に  
ために起こった問題である。これは、来年へ  
課題となった。下記が授業後の学生の問題で  
あったアンケートである。

一人一人の頑張り、やる気が全然違っ  
たことが残念だ。ミュージカルに参加しな  
い人への発表後の対応を考えるべきであ  
る。その人たちは何を目標としているの  
がわからなかったのも、なんのために頑  
張っているのか正直わからなかった。

#### 授業の大まかな流れ

- ① ミュージカルナンバーの練習
- ② ミュージカルの合唱の練習
- ③ グループで合唱アンサンブルの練習
- ④ 合唱アンサンブルの発表会
- ⑤ ミュージカルの公演練習

①～④は全員が発表に向けてしっかりと取  
り組んだが、⑤から出演しない学生と演じる  
学生との格差が生まれた。

来年もミュージカルを公演したいと言う学  
生も多いため、来年度は講座受講者全員が参  
加するという方針で臨む必要があると感じた。  
他のアンケートも記載する。

私は、ミュージカルを通して、音楽はす  
る側も聴く側もお互いに楽しめる素敵な  
教科だなと改めて感じました。ミュージ  
カルの練習を重ねるにつれて一人一人が  
どんな役なのか、どんなシーンなのかを  
知り、演技の仕方がわかりだしたとき、  
それまでは合唱隊だからって思っていた  
けど、それなりに出来ることがたくさん  
あるのではと思うようになりました。ま  
た、練習中、あるソリストの方が歌いな  
がら演技をされていたときに「おおー」  
っと歓声？感嘆？の声があがったことが  
ありました。そのお芝居を見たときはほ  
んとにそのソリストの普段の印象とは全  
然違ってレ・ミゼラブルの中の登場  
人物そのもので、いやらしさやきつさが  
滲み出ている、ただただすごい、かっこ  
いいと思うばかりでした。人の気持ちを  
揺さぶるってこういうことなんだと思

いました。アンケートにも誰の歌がよか  
った！楽しかった！など多くの人を書いて  
くれていて自分のことでなくても合唱  
隊として少しでも関わることがとても  
嬉しく思えたし皆の想いが伝わったのか  
なと思ってミュージカルやってよかった  
なあと感じました。自分も人に影響を与  
える歌やお芝居がしたいなと思いました  
来年もミュージカルに挑戦したいなと思  
いました。

ソリストをやったわけですけど、まず最  
初ソリストをすることになった時は、歌  
なんかやったことないのにどうしよ  
うって感じで、正直無謀に思っていました。  
しかし、だからこそ、練習に気合が入  
って、なんとか本番歌いきることができ  
ました。あくまでなんとか。このミュー  
ジカルがあったお陰で、こんなに歌を練  
習したし、多少なりとも上手くなったし、  
はじめての演技、ミュージカルについて  
も学べました。とてもいい経験でした。  
感謝しております。単位よりも大事な  
ものをもらえました。

ミュージカルは自分が好きなので練習と  
かは全然苦ではなかった。けど、今回は  
練習日程を決めるのが遅かったりいろ  
んな決め事が遅すぎた。また、参加し  
てる人と参加してない人が決まってい  
たり、やる気がある人やない人の差が  
あったりするのはいやだなと思った。  
また、一回生は特に今までの経験が  
ない分、分からないことも多く先輩  
方がどのようなことを想像して目標  
にしているのか分からなかったため、  
やりにくかった。自分の理想だが、  
ミュージカルは踊ってなんぼだと思  
うので、次回から踊りを多く含んで  
やりたいと思った。私は初めてミ  
ュージカルというものに触れていい  
経験になったし、なによりも楽し  
かったので来年も頑張りたいなと思  
う。来年からはちゃんと合唱代表  
と先生がきちんと話し合いをして  
良いものを作りたい。

## 5. 地域とのつながり

今年は楽友会コンサートが実施されないことから、発表の場を得るために、附属校の土曜学習とのコラボを考えた。

そこで、毎年附属校で行っていた学校コンサートを実施しないで、「親子で土曜日の夕方にミュージカルを見て音楽を楽しもう！」とミュージカル鑑賞の土曜学習を企画した。ミュージカルはユゴーの「ああ無情」を題材にした「レ・ミゼラブル」である。附属校や地域や大学とのつながりを考えて、公演メンバーを合唱の受講者以外からも募集して、次のようなメンバーが加わった。

- ① 子役を小学生から3名配役した。
- ② 男子学生が少ないため、中学校のコーラス部の生徒3名を若者役にした。
- ③ さらに、若者役の男声を増やすためサークル仲間から歌うことが好きな学生を加えた。
- ④ 小学生の子役の兄弟を若者役に加える。
- ⑤ 以前に行ったこのミュージカルの経験者の先輩を若者役に配した。
- ⑥ 以前参加した先輩で松山の教員をしている方に照明をお願いした。

中学生は変声期に入ったばかりの生徒もいたが、部活動の時間に合唱の授業に入り、学生達と共に歌うことで、しっかりとした発声で歌うことができた。

愛媛大学の先輩の様々な応援により、学生達は活力を持って公演に向けて頑張った。

## 6. 授業時間外の学習

この授業だけは公演することが難しいため、週1回程度集まって合唱の練習を進めた。もちろん、全員が集まることができないため、仲間と時間を工夫して自分だけではできない音の確認やハーモニーの取り方、動きや表情等を協力しながら学習を進めた。しかし、ここでもアンケートにあったように全員が揃わないことに不満をもつ学生もいた。この点も来年への課題である。

## 7. 公演を終えての評価

公演は昨年よりも練習が少なく、歌を専門にしている学生も少なく、1、2回生が多か

ったため、わたくし自身音楽的には指導不足で満足できるものではなかった。しかし、学生達は嬉しそうに、公演後、観客の皆様をお見送りしていた。満足できたのであろう。

土曜学習として意義があったか、観客の皆様が満足したかを考えて、アンケートを紹介する。

〔土曜学習参加者〕

- ・初めて子どもと見ることができ、楽しかったです。いつも小学校で見ているようですが、今回は下の子も親も一緒に鑑賞できてよかったです。(女性・親)
- ・すばらしい機会をありがとうございました。これを期に子どもと話し合います。皆さん素敵なお先生になりますように！(女性・親)
- ・すばらしかったです。小さい頃からミュージカルを見る機会があることに感謝します。(女性・親)
- ・狭い舞台でしたが、若い学生の歌声がすばらしく感動しました。来年も楽しみにしています。(女性・親)
- ・数年前の「レ・ミゼラブル」のときはあまり意味がわからなかったのですが、今回は戦って命を落とした人々の勇気に感動しました。(6年生)
- ・すごくよく、良いところばかりでした。一人一人の表情や場面で表情がすごく変わりその時に合っていました。(5年生)
- ・歌も演技もすばらしいので100分があつという間でした。(5年生)
- ・言葉を歌にしていたのがすごいと思いました。それと、音楽に合わせてやっているのもよかったです。(4年生)
- ・すごく楽しかったので私もやりたいなあと思いました。がんばってください。(4年生)
- ・9年後の様子がすごかったです。私もやりたいと思いました。はく力もすごくあって、いっぱい練習したんだということがわかりました。(3年生)
- ・すごかったです。うたいながらえんぎをしたのがおもしろいです。(2年生)
- ・きょう学生のみなさんがおおきなこえでうたってくれたので、すごく気持ちがつたわりました。(1年生)

〔一般参加者〕

・感動して涙が出ました。もう一度見たいです。演奏も歌も本当に素敵でした。

（47歳・女性）

・感動、感激で胸が一杯です。すばらしいミュージカルありがとうございます。皆様の心からの歌声、心に響きました。

（53歳・女性）

・本当にすごかったです。鳥肌が立ちました。最高でした。（21歳・女性）

・一人一人の熱演に胸があつたかい気持ちになりました。合唱、ミュージカルいいものだなと思いました。（31歳・女性）

・授業の中での短い練習時間でとても素晴らしいミュージカルでした。すっかり心から引き込まれました。（49歳・女性）

・時代背景やストーリーを知らない小学生には難しいかなと思っていましたが、最初から最後まで集中して見ていました。これを機に、子ども向けに書かれた「レ・ミゼラブル」の本を読ませてみようかなと思います。（41歳・女性）

・感動して涙がでました。みなさんの「何か」が伝わってきました。ミュージカルは初めてでした。とても楽しかったです。胸があつくなりました。（58歳・女性）

・初めてでしたが、すごく楽しく見ることができました。次もぜひ見てみたいです。

（48歳・男性）

・最初から最後まで舞台に引き込まれました。最後はつい目頭があつくなりました。

（21歳・男性）

・Fantastic!（42歳・男性）

指導者としては、多くの問題があつた舞台だと思っていたが、多くの方々から感動のアンケート結果をいただいた。子どもからもよかったとの声を聞くことができた。

その要因としては、演目が人の心に入り込む内容であつたことと、物語と章光堂という場所とのマッチングがうまくいったことにあると思った。もちろん、学生達が自分の力の最大限を發揮して表現したことも否めない。

また、この公演に向けて、多くの方々の賛助があつたことも成功の一因である。小学生、中学生、高校生、大学生が仲間となつて心一つに表現したことが素晴らしかった。

## 8. 終わりに（来年への対策）

合唱の授業として、その発表の場をミュージカル公演として取り組んできた。しかし、段々と音楽を専門に学習している学生が減っていたため、楽友会コンサートはなくなり、公演が難しくなってきた。そこで、本年度は附属校の土曜学習として公演を試みた。

アンケート結果や学生の公演後の反応から公演はまずまずの成功を収めた。しかし、多くの問題が残されている。この問題を解決しないと来年度からも継続していくことはできない。次のような問題点が考えられる。

- ①人数が減っていく中で、どのようなミュージカルができるか。
- ②合唱受講生を全員出演させることができるか。
- ③練習の在り方、授業内での取組の計画性の見直し

①の対策として考えることは、大学内で多くの学生にこの授業への興味を囿り、受講者を増やすことである。今年も、小サブコースや他学部の学生が参加してくれた。授業を受講する学生を増やすことから始めなければならない。

また、小中学生を土曜学習として、学生と共に練習し、その発表の場を公演に当てる方法である。実際、アンケートでは来年はこの舞台に立ちたいという子どもが10名程度いた。また、公演後このミュージカルに参加したいと言う中学生もいた。このためには、日程の早急な確保、学生や附属校との連携、ミュージカル内容の厳選等が大切になってくる。学生と研究模索しながら、早めの企画が重要であろう。さらには、今年も出演してくれた愛媛大学の先輩とのコラボも考えることができる。

②の対策としては、まず公演時期を早めに計画することである。今年の出演できない学生の多くは自分との日程が合わないことであつた。大学の行事、附属校の行事、練習日程等を考えて早く企画する必要がある。また、受講の資格として、公演に何かの形で参加することを定義づける必要があるかもしれない。

③の対策としては②と関連することが多いが、日程を早く計画し、学生の練習時間を確保することにある。部活動やアルバイト等で、

週1回の授業外練習に集まることができなかった学生が多かったため、その時間のクリアを目指したい。どうしても、15回の授業だけでは仕上がりが難しい。また、小学生や中学生とのコラボする時間を見いだすことも大切になってくる。

これら3つの問題点をクリアしながら、附属校やOBとの連携を取って、来年もより感動あるミュージカル公演を目指したい。教育学部で学ぶことのできる学生が音楽を好きになり、音楽に感動し、音楽を教えることができることを願って…。



《制作・指揮》楠俊明（愛媛大学教育学部准教授）

《Cast》

ジャン・ヴァルジャン：

上野健一（教育・学校教育3回生）

ジャベール：小山久樹（教育・学校教育4回生）

ファンティーン：白川紗弓（教育・音楽文化4回生）

エポニーヌ：松木わかな（教育・音楽文化4回生）

マリウス：南條佑太（教育・中等音楽1回生）

コゼット：高橋優里（教育・音楽文化3回生）

アンジョルラス：木下竜鳳（教育・学校教育4回生）

テナルディエ：池田悠人（教職大学院1回生）

テナルディエ妻：白木菜々子（教育・中等音楽2回生）

司教：小西健文（教育・小学校サブ2回生）

ガブローシュ：藤岡弘規

（愛媛大学教育学部附属小学校6年生）

リトルコゼット：井上和奏

（愛媛大学教育学部附属小学校5年生）

リトルエポニーヌ：大西由愛

（愛媛大学教育学部附属小学校5年生）

《Ensemble》市民、囚人 etc.

【1回生】矢野成実（教・中等音楽）

山田恵里（教・中等音楽）西岡渚（教・小学校サブ）

秦侑希（教・小学校サブ）

【2回生】古和田美友（教・中等音楽）

平井智香（教・中等音楽）浅野萌依子（教・小学校サブ）

小西健文（教・小学校サブ）空林美里（教・小学校サブ）

土本真緒（教・小学校サブ）

【3回生】西島菜於子（教・音楽文化）

大塚駿希（SSC・環境科学）金奇徳（法・総合政策）

【愛媛大学教育学部教育学部附属中学校】田島聡（2年）

中野億（2年）丸山真司（2年）

【済美高等学校】藤岡真弘（3年）

【卒業生】本多賢哉

《Orchestra》

Electone：鈴木理子（教・中等音楽1回生）【前半】

来嶋英生（松山市立南中学校教諭）【後半】

Synthesizer：来嶋英生【前半】鈴木理子【後半】

Percussion：井上裕美子（教・音楽文化3回生）

今西優希（教・音楽文化3回生）

《Staff》

総合責任者：西島菜於子

照明：一色美里（教・学校教育3回生）

斉木映見（教・小学校サブ2回生）

佐久間成美（教・小学校サブ1回生）山崎香苗（卒業生）

音響：井上洋一（愛媛大学教育学部教授）

福島美彩希（教・学校教育4回生）

